

いも仲間といも類振興会のコラボレーション

(独)農研機構 総合企画調整部長 小巻 克巳

いも類振興会創立60年、いも類振興情報100号刊行おめでとうございます。

私がサツマイモ育種に関わったのは昭和54年のことでした。現在、いも類振興会の評議員をしておられる小林 仁さんが九州農業試験場（九州農試）の指宿試験地の室長をされておられたときに、新人として採用されたのが始まりです。指宿試験地ではサツマイモの品種改良の第一歩となる交配を行っていました。次いで、交配で得られた雑種種子を育てて選抜する育種研究室に移り、平成3年までの12年間九州農試の3拠点（指宿、西合志、都城）で、サツマイモの品種改良に関わってきました。ですから、私にとってサツマイモと九州は切っても切れないものでしたし、「つくばで行っている品種改良なんて何するものぞ」という意識も強くありました。

平成5年につくばにある農業研究センターの甘しょ育種研究室長に着任しました。九州農試ではサツマイモが重点課題になっていましたし、近所の農家の人達も頻繁に訪れ、地域の農業に役に立っているという実感がありました。しかし、つくばでは研究者は立派な建物にいる学者先生というイメージがあるのでしょうか、なかなか農家の人とは来てくれませんし、関東畑地帯の重要な作物であるにもかかわらず、研究所は稲麦大豆を中心テーマに据え、サツマ

イモは横に置かれているような感じがしていました。唯一、茨城県旭村の若手サツマイモ生産者との交流に喜びを見いだしていました。そんな中で、いも類振興会と農水省の畑作振興課が音頭をとって、干しいもの品質向上や消費拡大に向けた検討会が開かれました。その時に、川小商店の齋藤興平さん、みかど農産の中本賢さんなどとお会いする機会がありました。九州農試では生産者と実需者対応がほとんどだったものでしたから、流通の方とのお話の中から得られる情報は新鮮で、つくばでのサツマイモ育種をどうすべきかを考える上で大変役に立ちました。そうこうするうちに、日本いも類研究会が結成され、様々な分野からいも類に興味を持っておられる方達と意見交換する機会ができました。おいしい紫いも「パープルスイートロード」、低温ででん粉が糊化し甘くなる「クイックスイート」、小さないもをつける「ひめあやか」などはこうした機会に得た情報を参考に開発した新品種です。

研究は人と人のつながりを大切にすることで発展します。いも類振興会が、日本のいも類関係者の交流の場を提供することで、いも類の生産・流通・消費・研究の輪が広がっているものと感じています。これからも、いも類振興会とのコラボレーションを大切にしたいものです。